

## 最優秀賞

医療の町 わかやま

智辯学園和歌山小学校 六年

秦 史帆

私はこの夏、大阪・関西万博を訪れた。さまざまの国の人々のパビリオンを見て回る中で特に印象に残ったのは「医療」に関する展示だ。各國が未来の命や健康のあり方を真剣に考えていると感じた。その中でもスイスの展示は、とても心に残った。

スイス・パビリオンでは、AIによる病気の早期発見や、自宅にいながら診察を受けられる遠隔医療、健康状態を日々チェックできるデバイスなどが紹介されていた。また、自然の中での暮らしと心の健康も大切にしており、医療と日常生活が一体となっていた。私は、「これこそが、これから社会のあり方なのではないか」と思った。和歌山は高齢化が進んでおり、特に山間部では病院までの距離が遠いなど、医療の問題をかかえている。しかし、視点を変えてみると、和歌山こそ未来の医療の力で大きく変わると可能性を持つた場所ではないだろうか。例えば、イスの医療技術を活用し、遠隔医療を導入すれば、和歌山の山間部でも、自宅で専門医の診察を受けられる。AIによる健康管理が進めば、一人暮らしの高齢者もより安心して生活できるようになる。また、ドローンを使って薬などを届ける仕組みも、山間部の多い和歌山でこそ生かせる仕組みだろう。

さらに、和歌山の強みである自然を生かして、「医療×観光」のような新しい産業を生み出すこともでき、地域活性化につながる。

万博でのスイスの医療に関する展示は、「未来の医療は、都市だけでなく地方の暮らしも支える力を持っている」と教えてくれた。私はこの和歌山にこそ、その未来が広がっていると信じている。